

介護士を中心とした多職種連携による 医療依存度が高い寝たきり患者の褥瘡予防への取り組み

多根第二病院 介護部

矢田部 要子 井上 真彦 奥山 美智子

要 旨

【背景】A病棟は介護療養病棟から医療療養病棟に転換され、医療依存度の高い寝たきり患者の増加に伴い、褥瘡発生の予防が課題となった。【目的】褥瘡を作らないポジショニング知識・技術を身につける。【方法】看護師・リハビリテーション技師と連携し、12名の条件を満たした患者のポジショニングの見直しを実施した。患者のベッドサイドにポジショニング方法が記載された「ポジショニング図」を掲示、週1回、臀部皮膚の状態を観察し、2か月後に皮膚の状態を再評価した。【結果】12名のうち2名は発赤なく経過し、8名は指圧で消退する発赤が消失していた。しかし、2名は改善が見られなかったことから、その要因をさらに検討し、「ポジショニング図」をイラストから写真に改良した。より個別性のある「ポジショニング図」を提供することで、これら褥瘡も最終的に治癒させることができた。【考察】多職種と連携したことで、ポジショニング知識・技術を習得し、「ポジショニング図」を掲示したことで、誰もが実践できる統一されたポジショニングの実施に繋がった。【結論】ポジショニングに関する知識・技術は、より効果的な褥瘡の予防と治療にきわめて有用であると考えられた。

Key words：ポジショニング；体位変換；褥瘡

はじめに

近年、我が国の高齢化は著しく、平成30年10月現在で65歳以上の人口は3557万8千人となり、総人口に占める割合は28.1%と年々増加している¹⁾。

A病棟は平成30年5月に介護療養病棟から医療療養病棟に病床機能が転換され、医療依存度の高い寝たきりの患者が増加した。

寝たきりで過ごしていると、関節拘縮や褥瘡といった問題が引き起こされやすい。褥瘡を予防するために、病棟では体位変換や保湿などのケアが行われてきているが、長期にわたり新たな褥瘡の発生を回避することは困難であった。

今回、介護職員の「褥瘡」と「ポジショニング」に関する知識とその理解度を把握するために、事前調査を実施したところ、体位変換時のポジショニングの知識・技術について、職員間の格差が大きいことが判明

した。

そこで、患者の臀部に発生する褥瘡に焦点を当て、その予防に取り組むこととした。その結果を報告する。

用語の定義

ポジショニング²⁾：身体の動きを制限しないこと、体に合わせたクッションを選ぶこと。

体位変換³⁾：ベッド、椅子などの支持体と接触しているために体重がかかって圧迫されている身体の部位を、身体が向いている方向、頭部挙上の角度、身体の格好、姿勢などを変えることによって移動させること。

褥瘡²⁾：一定の部位に圧力が加わって皮膚の一部が壊死すること。

ステージⅠ：表皮が赤くなり、押さえても色が消えない。

ステージⅡ：表皮に水膨れができる。深いものは真



皮に及ぶ。毛細血管が透けて赤く見える。

目 的

安楽な体位の提供と、褥瘡を発生させないポジショニング知識・技術を習得すること。

倫理的配慮

口頭にて、取り組み内容の説明・目的・個人が特定されないことを伝え同意を得た。

また、意思疎通困難な患者には、家族より承諾を得た。

方 法

1. 期間：2018年5月1日～2019年3月31日。
2. 対象：A病棟に入院中の患者で、①低反発マットレス使用者、②24時間臥床状態、③関節拘縮がある、または進行している、④褥瘡発生リスクがある、またはすでに有している、①～④の条件をすべて満たした12名。
3. 介入方法
 - ・体位変換に関する現場職員の事前意識調査と掲示物の見直しを実施。
 - ・看護師とリハビリテーション技師が連携し、ポジショニングの見直しを実施。
 - ・体位変換用枕の当て方をイラストにし、「ポジショニング図」を対象患者の枕元に掲示。
 - ・リハビリテーション技師からのポジショニング技術の指導を受け、スタッフ間での情報共有。
 - ・新たに作成した「ポジショニング図」通りにポジショニングを実施し、2か月後、褥瘡好発部位の皮膚の状態を再評価した。

結 果

まず、介護職員に体位変換時のポジショニングに関

する事前意識調査を実施した結果、「患者のベッドサイドに掲示している褥瘡予防の情報が古くて見にくい」「行っているポジショニングが良いのかどうかかわからず不安である」「介護職員の知識・技術の不足からケアの統一・継続ができない」など、体位変換時のポジショニングに関して、患者ごとの症状や状況が異なるという個別的なポジショニング技術の習得・統一したケアの必要性が見えてきた。

そこで看護師と連携し、四肢拘縮や骨突出による圧迫・ずれ対策等のアセスメントを実施し、ポジショニングを見直した。

最終確認をリハビリテーション技師に依頼し、①できるだけ腰がそらないように、肩甲骨は外側、頸部は軽度屈曲位、②頸部、体幹部など全身のねじれ、傾きを少なくする、③身体とマットレスの間に隙間をつくらない、④マットレス、クッションは柔らかすぎるものを使用しないなどの知識を習得した。

これらの試みにより、個別的なポジショニングのための体位変換枕の当て方がより明確となった。

イラストで記した「ポジショニング図」を患者のベッドサイドに掲示し、週1回臀部の発赤の有無について観察を開始、2か月後、褥瘡好発部位の皮膚の状態を再評価した結果、12名中10名は発赤の出現なく経過し、内8名は発赤が消失していた(表1)。

しかし残り2名のうち、1名はステージⅠの褥瘡が不変であり、1名にはステージⅡの褥瘡が新たに発生した。そこで、対象患者をこの2名に絞り、さらにケア内容を修正した。

「イラストだと体位変換枕の種類がわかりにくい」「側臥位時に背中に当てる体位変換枕が滑りやすい素材で、時間の経過とともに仰臥位になり、褥瘡発生部位を圧迫している」など、新たな課題が見いだされ、側臥位時のポジショニングを写真にし、「ポジショニング図」をイラストから写真に変更した。また、写真

表1 患者の皮膚状態

患者	取り組み開始時	取り組み2か月後
A	発赤なし	発赤発生なし
B	発赤なし	発赤発生なし
C	指圧で消退する発赤あり	発赤発生なし
D	指圧で消退する発赤あり	発赤発生なし
E	指圧で消退する発赤あり	発赤発生なし
F	指圧で消退する発赤あり	発赤発生なし
G	指圧で消退する発赤あり	発赤発生なし
H	指圧で消退する発赤あり	発赤発生なし
I	指圧で消退する発赤あり	発赤発生なし
J	指圧で消退する発赤あり	発赤発生なし
K	ステージⅠ褥瘡あり	ステージⅠ褥瘡継続
L	指圧で消退する発赤あり	ステージⅡ褥瘡発生



図1 ポジショニング図の改訂前と改訂後 (電子版カラー掲載)

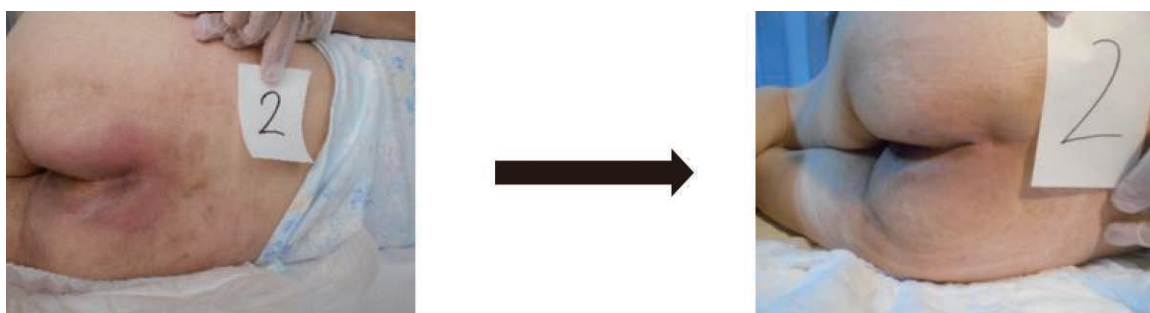


図2 2か月後の評価 (電子版カラー掲載)

に掲載してある体位変換枕を洗濯等で変更する場合には、それをそれぞれの図に反映させた (図1)。

看護師・リハビリテーション技師との連携により、体位変換時の体位変換枕の使用方法を習得し、個別性のあるポジショニングを提供することができた。また、対象患者2名について、ステージIの褥瘡の残存や、ステージIIの褥瘡が新たに発生した要因に関して、介護職員が中心となり、アセスメントを再実施し改善点を見出すことができた。その後、対象患者2名のうち1名はステージIの褥瘡が治癒し (図2)、もう1名のステージIIの褥瘡もやがて治癒に至った。

考 察

介護職員に事前意識調査を行うことで、ポジショニングに関する現状がわかり、問題点を明確化することができた。

そして、介護職員の疑問・不安を、看護師やリハビリテーション技師に相談し、アドバイスを受けたことで、ポジショニングの知識・技術が習得されたと考えられる。

さらに「ポジショニング図」を改訂し、ベッドサイドに掲示したことで、必要とされるポジショニングを、より精確に視覚的に伝えることができたことか

ら、共通理解が得やすくなり、統一したポジショニングを行うことができるようになった。

大浦⁴⁾は「褥瘡が治るか治らないかは、実際に体位変換を行っている看護助手、ヘルパー、家族の方々がどれだけ褥瘡のことを理解しているかにかかっている」と述べており、職員の統一したポジショニングが褥瘡予防に繋がると考えられる。

また、多職種連携がケアの質の向上に繋がったと考えられた。

おわりに

ポジショニングに関する知識や技術の習得があれば、安楽な体位や褥瘡の予防に繋がる。継続したポジショニングの統一のためには、可視化できるしくみや環境調整が必要となる。そして意思疎通が難しい患者に対して、医療チームの一方的なポジショニングの提供になってはならない。そのためには、患者から受ける非言語的コミュニケーションから安楽なポジショニングを追究していく必要があると考えられる。

文 献

- 1) 総務省統計局：全国人口、人口推計 (2018年 (平成30年) 10月1日現在), 2019, <http://www.>

stat.go.jp/data/jinsui/2018np/index.html (参照 2020. 8. 27)

- 2) 黒岩恭子, 江頭文江, 大内基史, 他: 知っている
と楽になる高齢者の介護 30, 日本放送出版協会,
東京, 71, 2010

- 3) 日本褥瘡学会: 体位変換. 用語集, 2008,
<http://www.jspu.org/jpn/journal/yougo.html#taii>
- 4) 大浦武彦: わかりやすい褥瘡予防・治療ガイド,
第1版, 照林社, 東京, 69, 2001

Editorial Comment

療養型病院における医療依存度の高い寝たきりの患者への褥瘡予防は必須であり, 褥瘡ケアにおいて多職種連携の視点は欠かせない. 本論文は介護士の立場から褥瘡予防に取り組んだ過程がわかりやすく記述されている. 特に, 長期寝たきり患者は関節拘縮などが進み, 個別的なポジショニングの実施が重要である. また, リハビリテーション技師や看護師と連携してポジショニングを見直し, さらにポジショニング図とし

て可視化したことで, 統一したケアが実施できたことは評価すべき点である. 今回, 介護士である自分たちにもできることは何かを考えて実践したことで自信にも繋がり, 今後も医療チームの一員としての活躍が期待できる論文である.

多根第二病院 看護部
松木友美恵

急性期病院は治療により病状が改善した時点で退院となる. しかし, 急性期治療を終えても, 医療処置行為等が必要なため自宅療養に移行することが困難で医療療養型病院へ転院する患者も少なくない. 医療療養病床では看護師の配置が少なく, 看護補助者への医療的負担が高いにも関わらず患者・家族の医療に求めるニーズは急性期病院と同様に高い. よって, 高い質を保ちながら安全で安心な医療を提供するためには, 多職種が協働し, 専門性を発揮することが必要不可欠で

ある. 本研究では褥瘡予防に向け看護補助者の知識と技術のスキルアップが重要であると論じている. 褥瘡予防のためのポジショニングは千差万別であり, 各々の職種と情報共有し, 患者に応じて統一したケアの提供が重要だと考える. 今後も患者に寄り添い, チームで協働した褥瘡予防への取り組みを期待する.

多根総合病院 看護部
好岡文葉

褥瘡の歴史¹⁾は古く, 古代エジプトのミイラにも観察され, 当時は蜂蜜を塗っていたという. ルネッサンス時代になると, 「近代外科学の祖」と讃えられるフランスの王室外科医である Ambroise Paré (アンブロワーズ・パレ, 1510-1590) は褥瘡を合併した貴族について自伝で触れ, 栄養, 疼痛コントロールと壊死組織の切除 debridement が治療への道だと記している. 現代の治療とあまり変わらない. 彼は “Je le pansai, Dieu le guérit.” (Man may dress the wound, but only God can heal.) という言葉を残している. 直訳すると “私は包帯を巻くことはできるが, 治すのは神だ” という意味だが, 傷は最適な環境を維持すれば自然治癒力で治るという創傷治癒の本質を見抜いた言葉である. パレは病床にあった国王シャルル9世に「哀れな患者よりもっと良い手当をしてくれ」と言われ, 「それはできません. すべての病み人に国王と同じ手当をしているからです」と答えたという逸話が残る人物でもある²⁾.

脳神経外科医にとってさらに興味深いのは, 高名な神経内科医が褥瘡研究に関わった事実である. 19世紀になると「フランス神経学の父」と呼ばれるシャルコー先生 (Jean-Martin Charcot, 1825-1893) が神経栄養説 neurotropic theory を唱え, 褥瘡潰瘍が神経障害によるものだと考えたのに対し, ブラウン・セカール症候群 (脊髄半側症候群) で有名な Brown-Séquard (1817-1894, モーリシャス生まれ) はモルモットの脊髄損傷モデルを用いて潰瘍は除圧で治療すること, 圧迫を避

ければ潰瘍は生じないことから, 潰瘍の本態は圧迫による循環障害であることを証明した. このような褥瘡と脳神経内科の歴史的な繋がり, 褥瘡が脳卒中や脊髄損傷など中枢神経疾患の後遺症として大きな問題であることを物語っている. 歴史背景に興味がある読者はぜひ下記ホームページ¹⁾を参照されたい.

前置きが長くなったが, 本論文の要旨は2019年のKHS学術集会で発表された. 介護型から医療療養型への病床転換に対応するために著者らが取り組んだ発表内容に感銘を受けたので事務局から執筆をお願いした. 介護士の視点から, 多忙な業務の中で, 看護師, 理学療法士と連携して褥瘡予防に取り組んだことに敬意を表したい. 最後に述べられている「意思疎通が難しい患者から受ける非言語的コミュニケーションの意味をくみ取って, 医療チームの一方的なポジショニングの押しつけにならないように配慮する」という結語は素晴らしいと思う.

脳神経外科
小川竜介

文献:

- 1) Mccoulough S: The history of pressure ulcers. OSKA, 2019, <https://oska.uk.com/journal/the-history-of-pressure-ulcers> (参照 2021. 1. 13)
- 2) Wikipedia: アンブロワーズ・パレ. 2019, <https://ja.wikipedia.org/wiki/アンブロワーズ・パレ> (参照 2021. 1. 13)